

第33回景況調査結果

令和2年10月

大曲商工会議所中小企業相談所

1. 目的

大曲商工会議所地域内の商工業者の景況を把握し公表することにより、商工業者の事業推進に寄与するため実施した。

2. 景況判断指数（Diffusion Index 値）とは

景況判断指数はD I 値と表示され、求め方は、増加や好転と回答した事業所の割合から減少や悪化と回答した事業所の割合を差し引いた値で、プラスの時は好景気（景気拡大期）、マイナスの時は不景気（景気減速期）と判断される。

（計算例）

好転5社 変わらず3社 悪化2社 のD I 値は30ポイント
D I 値＝好転の割合（5社÷10社＝50%）－悪化の割合（2社÷10社＝20%）
D I 値＝50%－20%＝30（ポイント）

3. 調査対象期間

●前期の実績

前期（令和2年7月1日～令和2年9月30日）についての実績を
前年同期と比較（令和1年7月1日～令和1年9月30日）

●今期の見通し

今期（令和2年10月1日～令和2年12月31日）についての見通しを
前年同期と比較（令和1年10月1日～令和1年12月31日）

4. 回収状況

業種	対 象 事業所数	有 効 回 答 事業所数 (回収率)
建設業	32	22 (68%)
製造業	22	18 (81%)
卸売業	6	3 (50%)
小売業	80	58 (72%)
サービス業	60	42 (70%)
合計	200	143 (71%)

調査結果

()内は前回調査1月調査結果のDI値

①全業種

(単位: ポイント)

期間	景況	売上	在庫	利益	資金繰り	雇用
前期の実績 (前回調査)	△58.0 (△57.4)	△59.2 (△62.9)	△17.8 (△6.5)	△59.2 (△61.0)	△39.7 (△40.7)	3.6 (1.4)
今期の見通し (前回調査)	△54.5 (△54.6)	△60.6 (△55.7)	△13.7 (△7.8)	△61.4 (△56.0)	△44.6 (△40.7)	1.4 (0.7)

業種別

業種	期間	景況	売上	在庫	利益	資金繰り	雇用
建設業	前期の実績 (前回調査)	△36.4 (△45.8)	△27.3 (△54.2)	—	△33.3 (△58.3)	△19.0 (△33.3)	23.8 (25.0)
	今期の見通し (前回調査)	△27.3 (△45.8)	△45.5 (△45.8)	—	△45.0 (△50.0)	△21.1 (△33.3)	30.0 (33.3)
製造業	前期の実績 (前回調査)	△72.2 (△88.2)	△77.8 (△82.4)	△50.0 (△66.7)	△72.2 (△94.1)	△61.1 (△64.7)	△27.8 (△35.3)
	今期の見通し (前回調査)	△88.9 (△76.5)	△83.3 (△82.4)	△43.8 (△46.7)	△83.3 (△70.6)	△77.8 (△64.7)	△38.9 (△41.2)
卸売業	前期の実績 (前回調査)	0.0 (25.0)	0.0 (△50.0)	0.0 (25.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	66.3 (0.0)
	今期の見通し (前回調査)	0.0 (△50.0)	0.0 (△50.0)	0.0 (25.0)	0.0 (△50.0)	0.0 (△25.0)	33.3 (0.0)
小売業	前期の実績 (前回調査)	△69.0 (△59.3)	△72.4 (△64.4)	△9.3 (7.0)	△65.5 (△55.9)	△39.7 (△34.5)	△1.8 (5.4)
	今期の見通し (前回調査)	△55.2 (△59.3)	△62.1 (△61.0)	△5.6 (0.0)	△63.2 (△61.0)	△43.1 (△36.2)	△5.4 (0.0)
サービス業	前期の実績 (前回調査)	△52.4 (△56.8)	△53.7 (△58.3)	—	△61.9 (△62.2)	△43.9 (△48.6)	9.5 (△2.7)
	今期の見通し (前回調査)	△57.1 (△43.2)	△61.0 (△41.7)	—	△61.9 (△45.9)	△46.3 (△43.2)	11.9 (0.0)

(3) 自由表記

【建設業】

- ・土木関連受注好調も今後建設部門の受注減少が見込まれる。
(総合建設業)
- ・コロナの影響で今後の見通しはわからない点が多い。
(総合建設業)
- ・来年春から着工予定案件が増加する予定。
(建設業)
- ・全体的に需要は冷え込みぎみである。大型物件は少なく売上は減少する。
(建設業)

【小売業】

- ・今後の見通しは全く不明で不安である。
(一般小売)
- ・7月～9月は「大曲の花火」中止の影響が大きい。コロナの影響で宴会・飲食の納入が非常に少ない。
(酒類小売)
- ・モノの在り方、店の在り方を変えていかないといけないと思う。
(衣料小売)
- ・客数の戻りは実感できず、不透明感はまだ継続中である。。
(衣料小売)
- ・7月～9月は前年比137%、10月～12月は67%の見込み。
(食品小売業)

【サービス業】

- ・地域商品券の利用による新規のお客様が増えているので期待している。
(飲食店)

【製造業】

- ・現場減少のため、しばらくは減収・減益が続く見込み。
(製造業)
- ・コロナがなくなるとムリだと思う。
(製造業)

(4) 考 察

全国比較：日本商工会議所 LOBO 調査

県内比較：秋田県県内経済動向調査

参考比較：大曲商工会議所新型コロナウイルス事業影響調査

建設業

前回調査と比べると前期実績・今期見通しの雇用以外の項目が前回調査と同様に全ての項目がマイナスの結果となった。しかし、マイナスの数値自体は改善されている。

全国調査では 9 月に入り観光需要の低迷により、ホテルや飲食店の新設・改修工事が延期されるなど、民間設備投資の動きは鈍いものの、集中豪雨や台風の災害復旧を含む公共工事が下支えし、改善となっている。

県内経済動向調査によると公共投資が 9 月に 3 か月ぶりに前年同月を上回ったとある。

当所調査では売上 D I の前期実績△27.3、今期見通し△45.5 と数値は回復傾向にあるが、依然として厳しいものであり、まだウイルス感染拡大の長期化により景況感はさらに悪化する可能性がある。

製造業

前回調査と比べると景況 D I 値が前期実績△72.2、今期見通し△88.9 であり、前期実績・今期見通しの全ての項目が引き続き厳しい状況である。

全国調査では 9 月に入り巣ごもり消費の拡大により飲食料品関連などの売上が堅調なほか、経済活動が再開し、回復基調にある中国向けの自動車部品や、5G 向けの半導体製造装置で生産が持ち直しつつあり改善。ただし、需要が低迷する衣料品のほか、チラシや段ボールなどビジネス向けが低調な印刷業・製紙業は依然として弱く、まだ模様様の状況が続くとある。

県内経済動向調査によると木材・木製品などで落ち込みが続いており、全体としては弱含みの動きとなっているものの、一部に持ち直しの動きがみられるとある。

当所調査では改善傾向はみられず、業況の回復にはしばらく時間がかかりそうである。

卸売業

前回調査と比べると景況 D I 値の今期見通し 0 と改善した。しかし食品関連卸売業の業績は改善されておらず、完全な回復にはまだ時間がかかりそうである。

小売業

前回調査と比べると前期実績・今期見通しともに低調。数値も改善されていない。

全国調査では9月に入り巣ごもり消費の拡大により、飲食料品や日用品、趣味・娯楽などの売上が堅調だったものの、9月上旬の厳しい残暑や消費者のマインド低下の影響から、秋物衣料などの動きが鈍く、ほぼ横ばいである。

県内経済動向調査では9月は消費税率引き上げ前の駆け込み需要がみられた前年同月を下回っており、全体としては弱含みの動きとなっている。

当所調査でもほとんどの項目で前回調査より数値が悪化している。8月の全国花火競技大会中止の影響を受けた事業者が多数いることが分かった。今後もコロナウイルス感染が拡大するようであれば、かなり深刻な状況になると考えられる。

サービス業

前期実績・今期見通しともに厳しい状況が続いている。

全国調査では9月に入り観光需要の回復に向けた足取りは依然として力強さを欠くものの、GO TO トラベルの効果もあり、4連休の宿泊予約が伸びたことなどから、改善。ただし、飲食業や宿泊業からは、消毒液やフェイスシールドなどのコロナ対策コストの増大を指摘する声も多く聞かれた。

県内経済動向調査では9月は新型コロナウイルス感染症の影響から、低迷が続いているとある。

当所調査でも、行事の自粛などは続いており、地域商品券による飲食業・宿泊業への後押しはあるものの、自粛している消費者が一定おり回復にはかなり時間がかかると思われる。早期にコロナウイルスの影響が収束しなければ、より深刻な状況になると考えられる。

・全業種の景況は、前回調査と同様に新型コロナウイルスの影響が続いており、好調な業種はない。小売業・サービス業・製造業の落ち込みが激しい。卸売業・建設業も先行きは依然として不透明である。新型コロナウイルスによる落ち込みはしばらく続くと思われる。